

峰のひかり

発行人

社会福祉法人 七峰会

理事長 奥田 稔

〒036-8356

青森県弘前市大字下白銀町 21-8

電話 (0172)33-8861

FAX (0172)33-8862

年頭に、嬉しい実践成果報告を

|| 皆でマネて欲しい

オムツ外しへの取り組みを ||



社会福祉法人 七峰会

理事長 奥田 稔

新年明けましておめでとうございます。

社会福祉法人七峰会は、法人内の拓光園・拓心館・旭光園・サンアップホーム・山郷館・山郷館くろいしの基幹施設と、そこが担当して進めている通所利用の施設を利用して多くの方々と、そのご家族の皆さまと共に、多事多難であった平成22年の生活を乗り切って、23年への確実な一歩を踏み出しました。

例えば、異常天候によるところのものがその最たる事象であったのではないのでしょうか。特に、あの猛暑の中での生活でも「暑さに負けた」とか「暑さの為に」という理由による異常等が発生する事なく、常々変化に弱いと言われている人々が一人の落伍者も出さずに無事に乗り切る事が出来たのは、施設入所利用のご本人はもとよ

り、各施設の施設長を先頭に全職員が「利用者の生命を守る」という社会福祉施設活動の今日的任務に懸命に立ち向かった結果だと評価して当法人の働き人たちの力を高く称賛したいと考えています。

その中で、既にご報告いたしているところのものが特別養護老人ホーム サンアップホーム で「日中のオムツ外し」に取り組みで一年有余、一昨年(21年)末にオムツ「日中利用0%」を達成、これの持続と更に夜間利用0%へ向けて全職員が取り組み、これの達成を目前にしている事を私は当法人の施設と全ての事業と利用者のご家族の皆様とこれらの事業にご関心をもつ全ての方々に声を大きく出してご報告するのであります。

この運動は全国に拡がって居りますが日中の「オムツ外し」の取り組みを達成出来た施設は、未だ10ヶ所に達していない難しい取り組みなのであります。

素晴らしい成果であります。

入所して来た時には既にオムツ利用者にさせられていました。どれ程に嫌だったのでしょうか、表情さえも変わっていた方が、職員の努力と協同して遂に「オムツ外し」を自分の意思として達成し、トイレを使うように自分自身を変えたのです。

私は、前年のお正月のこの欄に「地域と共に」という課題に「心える」と題して当面の法人の事業取り組みの考え方について説明させていただきました。

当法人内の一つの現場での経験や成果を地域の各家庭の取り組みや法人内の各施設での取り組みに拡大していくことが「地域と共に」という課題に通じています。

価値ある成果を先ず取り組んだ施設だけのものに止めずに、法人内全施設へ拡大させて一つの施設で芽を出し、花を咲かせ、実を結んだ成果をその施設だけにしてしまわないで、法人内のそれぞれの施設でマネて法人内の各施設でも取り組む運動にまでなったという実像が出来ればと思うのです。又、当法人の事業を利用されているご家族の皆様の間でも有効な方策である時は、それぞれのご家庭の中に浸透していくことも、地域と共に歩む為の重要な課題であろうと考えております。

新しい年に発芽のあることを期待したいものです。

特別養護老人ホーム サンアップルグループ
「全国老人福祉施設大会」報告
北海道大会

サンアップルホームでは、おむつ外しを含む「自立支援介護」に日々、取り組んでいます。

平成22年10月20日～22日、全国の特別養護老人ホームが加盟する「全国老人福祉施設協議会」主催「全国老人福祉施設大会 北海道大会」に当施設の東谷康生フロアリーダーがシンポジストとして招かれました。この大会は、全国の高齢者施設職員2千名以上が参加する全国大会であり、主に施設長が多く参加します。

今回、シンポジストとして招かれた理由は「おむつゼロを達成するまでの経緯を報告して欲しい」という主催者の希望があつての事です。「年を取つても、おむつは使いたくない。」と誰もが考える望みではありませんが、全国の多くの特養では「おむつを交換する介護」が、未だに行われている現状です。おむつを付けたままの介護は、単に身体機能を低下させるだけではなく、人格を崩壊させ、認知症の悪化を招くともいわれています。私達の取り組みをお伝えすることで、全国の特養に少しでもお役に立つことが出来ればと

思い、お引き受けしました。

当日は、複数の分科会に分かれて開催されましたが、参加人数が最も多い、約400名の会場で、「おむつ外しの取り組みから、おむつゼロ達成まで」を聞いていただく事が出来ました。早速、反響があり「感動した」「ぜひ、施設見学をしたい」「もっと詳しく教えて欲しい」などの声をいただいています。

サンアップルホームでは「おむつ外し」だけではなく、先進的な取り組みを幾つも行っています。今後も、利用者の方々に「あづましい」生活を送っていただけますよう、職員一同努めていきます。



拓心館グループ
ドリーム会

1泊2日旅行

拓心館グループ『通勤寮拓心館』『津軽生活支援センター』の利用者

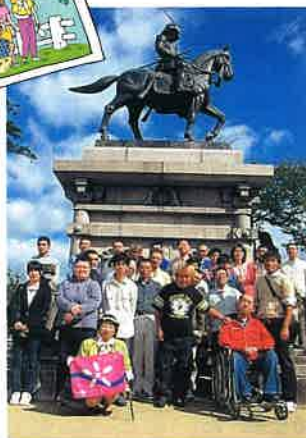
の皆さんで結成されている自治会「ドリーム会」では、年に1度の1泊2日旅行が恒例行事となつています。

今年集会を開き旅行会社の方からお勧めプランを提案して貰いそれぞれ好きな旅行先を選んだ結果、
 「東北楽天ゴールデンイーグルス 野球観戦コース（9月25～26日）」
 「函館コース（10月2～3日）」
 「気仙沼コース（9月18～19日）」

と3つのコースに分かれ自由参加でしたが計79名もの皆さんが旅行を楽しみました。

「函館コース」は昨年と同じコースでしたが「毎年行きたい！」「五稜郭に出来た新しい奉行所が見たい！」との多くの声が聞かれた最も人気の高いコースで、綺麗な街並みに惹かれ参加者の8割が女性でした。コースは「朝市」「函館山」「五稜郭」「元町」「ベイエリア」を回り、宿泊先の温泉ではカラオケ大会、宴会で盛り上がりました。

「東北楽天ゴールデンイーグルス 野球観戦コース」は球団の最下位が既に決定していましたが、参加者の9割が男性で熱狂的なプロ野球ファンが多く、ゲーム内容と球場の雰囲気は満足していました。



「気仙沼コース」は岩手三陸鉄道が好評で「珍しい電車に乗れた！」「車掌が女性だった！」などいつもと違う風景を楽しんでいました。宿泊先の温泉では、入浴を楽しんだ後、皆さん楽しみにしていた宴会が開かれ「フカヒレスープ飲み放題」「三陸産アワビの踊り食い」など三陸ならではの食を満喫していました。

皆さん年に1度の旅行を存分に楽しみ、リフレッシュ出来た様子でした。

知的障害者更生施設 拓光園

感動をありがとう

ゆめ半島 千葉大会

平成22年10月23日～25日「ゆめ半島 みんなが主役 花咲く笑顔」のスローガンのもと、第10回全国障害者スポーツ大会『ゆめ半島 千葉大会』が開催されました。この大会に、拓光園から、陸上競技の県代表として、柳谷敬さんが出場しました。敬さんの出場は平成18年の、『のじぎく兵庫大会』以来2回目となります。

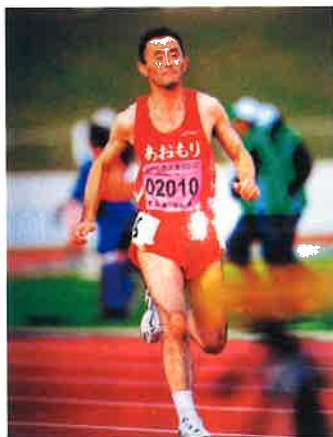
皇太子殿下ご臨席のもと、盛大な開会式が開かれ、その後、各競技の火ぶたが切つて落とされました。



敬さんは、50m走と走高跳びに出場しました。会場の大観衆が見つめる中、熱気ある陸上競技場の大型スクリーンに映し出された柳谷敬さんは、かなり緊張した面持ちでした。

が、練習の成果を發揮するため、プレッシャーに負けずに競技に臨みました。

50m走では、惜しくも入賞を逃したものの、走高跳びでは、みごと3位に入賞し銅メダルを獲得しました。この結果に、県代表選手一同が大きな拍手で出迎えてくれ、控えテント内は大歓声に包まれました。敬さんにとつても、生涯忘れることができな思ひ出になったと思えます。



障がいのあるなしに関わらず、またスポーツだけでなく、いろいろなことに挑戦していくことは大切です。そのような社会参加の機会を、拓光園は多くの利用者の方々に提供していきたいと考えています。

柳谷敬さん、おめでとう！そして、感動をありがとう。拓光園も皆さんに負けなように平成23年の大きな飛躍を目指します。

身体障害者福祉施設 山郷館くろいし

初の夕食会

山郷館で4ヶ所目となる山郷館デイサービスセンター黒石は、介護が必要な方々が利用する「生活介護」と、働く訓練を目的に利用している「就労継続支援事業B型」の2つの事業を併せた多機能型のデイサービスセンターです。

今回は、生活介護事業で毎月行われている行事を紹介します。

これまで、日中に食事外出を行事として行った事もありましたが、デイサービス利用者の方にとつて軽くお酒をたしなみながらの食事外出は、なかなか機会がないという事で「居酒屋の雰囲気を楽しもう」を計画してみました。夕食会としてみんなで食事、お酒を飲みながらという事もあり大変楽しみにしていたようです。夕食会は、『山郷館パレット』店舗にて行われました。利用者の皆さん、食材当てクイズを始め、味付けの隠し味を当てたり、使われている素材を食べ当てたりとおおいに盛り上がり、歌を歌いだす人もいれば、場の雰囲気でお酒が進む人も多数いらっしゃいました。利用者の皆さんの会話の中では、「夜

に出掛けて食事をしたり、お酒を飲みながらみんなでおしゃべりをしたりする機会が無いから、とても楽しかった。」という声が多く聞かれました。



帰る際も、利用者の皆さん名残惜しそうに席をなかなか立とうとせず、これから二次会でも始まるかなのような様子でした。後日、ある利用者の方のご家族からも、すごく喜んでたというお話が聞かれました。今後も、「あたり前の日常」をキーワードに、新たな活動を計画していきます。

身体障害者療護施設 山郷館グループ

山郷館訪問介護センターの紹介

『山郷館訪問介護センター』は、平成12年10月のサービス開始から今年で10年目を迎えました。平成15年には黒石市に新たな事業所を開設しており、2つの事業所を併せると、現在20名の訪問介護スタッフが在籍しています。

『山郷館訪問介護センター』は、弘前市大久保にある『山郷館デイサービスセンター弘前』に併設しており、介護保険と自立支援法に基づく訪問サービスを提供しています。一方、黒石市にある『訪問介護センター黒石』では、障がいを持つ方のニーズに応えるため、自立支援法の訪問介護サービスを提供しています。

どちらの事業所も開設当初から365日24時間体制でサービスを提供しており、利用される方々の生活リズムに合わせた時間帯でサービス提供が行えるように柔軟に対応することを大切にしてきました。

サービス内容は、居宅内で行われる「家事援助」や「身体介護」のほかに、移動が困難な障がい者の方が買



物や余暇活動などの外出で利用できる「移動支援」や「福祉有償運送」の事業、重度の障がい者の方が利用できる「重度訪問介護」も行っています。

利用される方々が安全で安心した生活が送れるように、そして、生き生きとした生活に向けた支援をしていくために、私たちスタッフも介護技術だけでなく、人と関わる上で必要とされる人間性をさらに高めていく姿勢を大事にしていきたいと考えています。

三十周年を迎えて

身体障害者療護施設 旭光園

去る11月5日、「さるか荘」において旭光園と家族会の共催で「旭光園開園30周年を祝う会」が開催されました。平川市長をはじめ、開設以来お世話を受けている八幡崎地区のボランティアの方々、家族会、法人役員、利用者、職員総勢110名が出席して盛大にお祝いをしました。

平川市長大川喜代治様よりご祝辞を頂戴した後、永年に亘って旭光園に尽力された、平川市消防団第14分団様、生花ボランティアの須郷千秋様、ふれあい陶芸教室の三上淳子様感謝状の贈呈がなされ、また家族会より大型液晶テレビの寄贈もありました。その後、開設当時の旭光園の様子やいろいろな行事、活動等ス

ライドショーで「30年の足跡」を鑑賞しました。懐かしい過去のひとコマに、感慨深い思いに浸りました。また、30周年を祝して、横笛奏者の「博雅」さんから演奏が披露されました。ねぶたばやしから歌謡曲、オリジナル曲等を披露していただき、その澄んだ笛の音色に魅了されました。

「共に働き、共に暮す」ことをひとつの柱として歩み始め、様々な困難を乗り越えて30年。当初は中々働こうとする仲間が集まらず、秋田県の方々にも呼びかけたお話。また、開設当初からの利用者さんからは、ラジオから旭光園で利用者を募集していることを聞き、畑からまつすぐ駆けつけたお話や、旭光園に来たら、利用者さんがたつた2人だったこと等、当時の貴重なエピソードも聞かれました。

三十周年の大きな節目に当たり、先輩たちが築いてくれた足跡を大切に、今まで以上に地域に信頼され、期待に応えていくことを確認しあい閉会しました。



介護事業

- 山郷館居宅介護支援センター ☎072941
サンアップル居宅介護支援センター ☎072131

高齢者介護事業

- 特別養護老人ホーム
サンアップルホーム ☎072111
サンアップル短期入所生活介護センター
サンアップルホームデイサービスセンター
サンアップルヘルパーセンター
認知症グループホームアップル ☎073758
認知症デイサービスセンターじょい ☎072778
サポートセンターわかば ☎071165
認知症グループホームわかば
デイサービスセンターわかば
サンアップル在宅介護支援センター ☎072131
住宅型有料老人ホーム「わかば」 ☎021888

障害者支援事業

- 主に知的
旭光園短期入所支援センター ☎062331
旭光園障害児デイサービスセンター
旭光園日中一時支援事業所
旭光園共同生活介護事業所(2ヶ所)
拓光館グループ ☎045200
自立訓練事業(宿泊型自立訓練生活訓練)
津軽生活支援センター(共同生活介護援助はあと)(児童デイサービス)
就労サポート(さき)就労移行就労継続B型事業
英才学園(就労訓練施設)
エイブル(生活介護)就労継続支援B型
主に身体
旭光園身体障害者短期入所事業所
福祉ホームさわら
旭光園身体障害者短期入所事業所
旭光園 ☎075155
山郷館訪問介護センター黒石 ☎060800
山郷館(パレット)(福祉ホーム)
山郷館(旭光園) ☎03070
山郷館身体障害者施設 旭光園 ☎075155
通所他障害利用事業

総合支援事業

- 胃腸科指定
津軽障害就業生活支援センター ☎04524
弘前市委託事業
弘前市障害者生活支援センター ☎02400
弘前市委託事業
弘前市北地域包括支援センター ☎02100
黒石市委託事業
山郷館総合支援センター黒石 ☎05018